

特集 海風の国

佐世保・小値賀観光圏

皆さんは何を求めて旅に出ますか？
テーマパークに行きたい、おいしいものを
食べたい、リラックスタイムなど、旅行の
目的は人それぞれですが、今、訪れた地域
の歴史、文化などを肌で感じ、体験できる
「新しい旅の形」が注目されています。
今回の特集では、「海風の国」佐世保・小
値賀観光圏をテーマに、観光圏の概要や取
り組みなどについてお知らせします。

観光圏とは、自然、歴史、文
化などで密接な関係のある観
光地同士が連携し、地域の幅
広い資源を活用して観光地の
魅力を高めようとする区域の
ことです。認定された区域で
は、法律の特例が適用され
り、財政支援を受けたりする
ことができます。

これまで主流だった観光施
設や景勝地を訪れる観光だけ
でなく、地域の皆さんで観光
客を受け入れる体制を作り上
げ、滞在しながら地域のの人々
と来訪者が触れ合うことので
きる「滞在交流型観光」を推進
することが、観光圏の主な取
り組みです。

新観光圏として、ことし4
月、国に認定されたのは全国
で6カ所。富良野・美瑛(北海
道富良野市など)、雪国(新潟
県湯沢町など)、八ヶ岳(山梨

県北杜市など)、にし阿波(剣
山・吉野川(徳島県三好市な
ど)、阿蘇くじゅう(熊本県阿
蘇市など)、そして「海風の国」
佐世保・小値賀(長崎県佐世保
市・小値賀町)です。

海を通じて古くから外と交
流してきた歴史を持ち、海に
育まれた文化を共有する佐世
保市と小値賀町。島国日本を
凝縮したようなこの地域には、
美しい景観や懐かしい日本の
原風景、独特の食文化や信仰
などが暮らしの中に息づいて
います。

今後5年間をかけて進めて
いく新観光圏事業では、両地
域が連携しながら「住んでよ
し、訪れてよし」の観光地域づ
くりを推進し、ここにしか
ない魅力を来訪者に提供するこ
とで、「日本の顔」となる観光地
域となることを目指します。

魅力あふれる SASEBO時旅

四季折々の佐世保の魅力伝えるSASEBO時旅は、定期的開催しているツアーのほか、季節に合わせた企画も多数用意しているので、観光客だけでなく市民の皆さんも楽しめます。詳しくは佐世保観光情報センターなどで配布するガイドブックや時旅ホームページをご覧ください。

「海軍さんの港まち」バスツアー



アメリカ海軍と海上自衛隊の施設内を訪ねる月に1度のスペシャルツアー。6月前から受け付けを開始します。

- 時 毎月第4日曜 9時45分～16時10分
- 料 小学生以上8,500円、4歳以上未就学児4,200円(バス、ガイド、昼食、保険料含む)
- 定 25人(最少催行9人)

SASEBOナイトツアー



佐世保の夜のまち歩きを楽しみながら外国人バーやJAZZバーへ。初めての人もガイドと一緒に安心です。

- 時 毎週金・土曜、祝日 19時30分～20時30分
- 料 1,000円(ガイド、保険料含む)
- ※飲食は自己負担。
- 定 10人(最少催行2人)

時旅デスク(9時～18時、土・日曜、祝日休み)

☎23-7212 FAX23-6570

ホームページ

<http://www.tokitabi.jp/>

フェイスブック

<http://www.facebook.com/sasebotokitabi>

時旅ガイドの手のひらブログ

<http://ecostay.jugem.jp/>



時旅「紅葉の寿福寺と江迎本陣 平戸藩ゆかりの日本酒とお料理」の様子。地域の若い担い手を中心となり、江迎活性化協議会を立ち上げるなど観光地域づくりに向けて動き出しています。寿福寺(江迎町長坂)では、「水かけ地蔵」の話を手作りの紙芝居で伝えるなど、地域の伝承を来訪者に伝える取り組みを行っています。

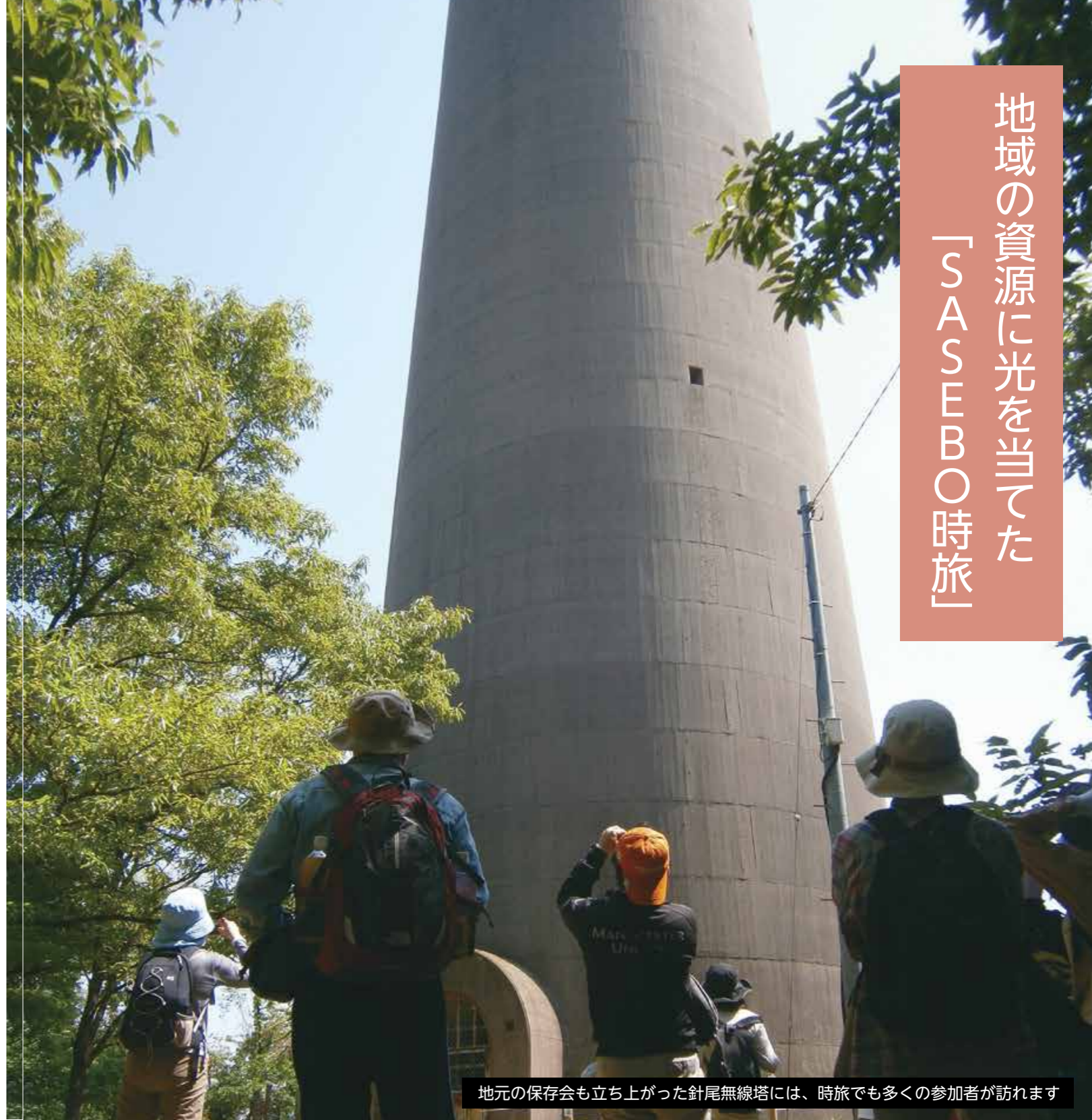


宇久町の「漁師まち歩きガイドツアー」(上左)と九十九島でのシーカヤックの様子(上右)、伝統文化を支えるみかわ焼の陶工の皆さん(下)

通網の整備なども含め、さまざまな関係機関と協力しながら、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを進めていきます。

佐世保観光コンベンション協会では、佐世保の多彩な魅力を発信する人材の育成などを目的に、時旅ガイド養成講座や、観光マイスター検定試験などを実施しています。観光圏認定をきっかけに新たな観光地域づくりが始まった今、皆さんもおもてなしの心で観光地佐世保を盛り上げていきましょう。

地域の資源に光を当てた「SASEBO時旅」



地元の保存会も立ち上がった針尾無線塔には、時旅でも多くの参加者が訪れます

平成23年からスタートした「SASEBO時旅」は、市民ガイドや地域の皆さんが企画する佐世保の新しい旅の形です。同じ市内でもさまざまな魅力を持つ本市には、現地でしか味わえない伝統文化や生活様式など貴重な観光資源がたくさんあります。SASEBO時旅は、そうした地域の隠れた資源を掘り起こし、発信することによる地域の活性化も期待されてきました。

観光地域づくりへと展開する時旅

立ち上げから3年が経過し、佐世保ならではの旅として定着してきたSASEBO時旅は、これまでの経験を生かしながら、佐世保観光コンベンション協会を中心に、観光地域づくりに向けて動き出しました。

現在、地域の人たちと一緒に滞在プログラムを準備したり、中心となる組織や人材を育成したりして、来訪者を受け入れるための仕組み作りに取り掛かっています。今後それぞれの地域が持つ魅力を周遊しながら楽しめるよう、交



1



2



3



4



5

佐世保から高速船で約2時間、宇久島の隣に位置する小値賀は、人口約2750人の小さな島でありながら、訪れる観光客は年間約2万人、経済効果は約2億円とも言われています。今、島の自然環境を破壊することなく、自然や島暮らしを満喫できる場所として注目されています。

島民が島を好きであること

小値賀の旅の窓口であるおぢかアイランドツーリズムでは、島の歴史や暮らしそのものを肌で感じることができ、プログラムを提供しています。「島の豊かさを存続させていくためには、まず島民が島の暮らしを好きであることが大切。住んでいる人がいいなと思うところを切り取って旅の形にすれば、それは観光客にとっても魅力的なはずです。小値賀の取り組みは、住んでよし、訪れてよしの観光圏の取り組みにもつながりますよね」

こう話すのはおぢかアイランドツーリズムの高砂樹史さん。観光を通じてきた高砂さんは、観光圏整備事業で「観光地域づくりマネージャー」として



高砂樹史さん

てアドバイザーの役目も担っています。自転車でのんびり島を巡ったり、今はほぼ無人島となっていた野崎島を散策したり、島の人と一緒にゴルフをしたりと、島ならではのゆったりした時間が流れる小値賀の旅。「小値賀では島民との距離が近いのも魅力の一つ。島の人も観光客との交流を楽しみにしていますよ」

小値賀民泊と古民家ステイ

小値賀が提案する旅のコンセプトは「暮らすように滞在する」。その代表的な取り組みが「民泊」と「古民家ステイ」です。

民泊とは一般の家庭に宿泊し、家族と生活をともにするというシステム。現在小値賀町では35軒が民泊に登録しており、手伝いや一緒に囲む食事を通じて、島の暮らしを丸ごと体験できます。民泊は全国的に広がっていますが、

小値賀民泊の特徴は各家庭それぞれ体験プログラムがあることです。島で漁業を営む宇戸正一郎さん宅では、魚釣りや農作業に加え、一緒におぢか焼の陶芸体験をすることもできます。「一度受け入れてみたら楽しくてたまらないんですよ」と妻の靖代さんは笑顔で話してくれました。

また、小値賀で3年前から始まった古民家ステイは、島内に点在する築100年以上の武家屋敷や商家の邸宅を改修した古民家に泊まるというもの。もともとの古き美しさを残しながら、快適さとモダンさが加えられた古民家は、島の歴史を伝える新たな観光資源として息を吹き返しました。関東をはじめ日本全国から、

佐世保市と小値賀町

新観光圏としてともに新たな一歩を踏み出した本市と小値賀町は、同じ西海国立公園内にあり、豊かな自然と海に育まれた文化を共有しています。隣接する宇久との連携や広域を生かした取り組みなど、海や交流をキーワードに互いの良さを生かしながら観光地域づくりを進めています。

佐世保観光コンベンション協会 ☎23・3369

豊かな自然や歴史的要素が凝縮された小値賀。ユネスコの世界遺産暫定リストにも登録されている旧野首教会など見どころがたくさんあります。

小値賀へのアクセス

佐世保港から高速船で約2時間、フェリーで約3時間 ※就航時間や料金など詳しくはお尋ねください。

問い合わせ

九州商船 ☎095-822-9153

小値賀での観光・島旅全般の窓口

おぢかアイランドツーリズム

☎0959-56-2646

※7時30分～18時30分、年中無休。

WEBサイト「おぢか島旅」

http://www.ojikajima.jp/